



## 令和7年度 編入学生募集要項

事 項	学 力 選 抜
WEB 出願受付期間	令和6年6月24日(月)～7月12日(金)
出 願 書 類 受 付 期 間	令和6年7月8日(月)～7月12日(金)
試 験 日	令和6年9月7日(土)
合 格 発 表 日 時	令和6年9月18日(水) 10時
入 学 手 続 日	令和7年3月6日(木)

独立行政法人国立高等専門学校機構  
**北九州工業高等専門学校**  
National Institute of Technology (KOSEN), Kitakyushu College

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

電 話 (093) 964-7251 学生課入試広報係

FAX (093) 964-7236 学生課

E-mail g-nyushi@kct.ac.jp

URL <https://www.kct.ac.jp/>

# 目 次

アドミッション・ポリシー .....	1
(「北九州高専が求める学生像」と「入学者選抜の基本方針」)	
WEB 出願について .....	2
1. 募集学科(コース)及び募集人員 .....	3
2. 出願資格 .....	3
3. 志望コース .....	3
4. 出願手続	
(1) 志願者による WEB 出願 .....	4
(2) 出願書類等一覧 .....	4
(3) 受付期間 .....	4
(4) 受付場所(提出先)及び問い合わせ先 .....	4
5. 選抜方法	
(1) 学力検査の科目及び出題範囲 .....	5
(2) 学力検査の配点 .....	6
(3) 学力検査の日時 .....	6
(4) 学力検査会場 .....	6
6. 合格者発表 .....	6
7. 個人情報の取扱い .....	6
8. 入学手続 .....	7
9. 入学者選抜に関する合理的配慮の提供について .....	7
10. 追試験の実施 .....	8
11. 検定料の免除について .....	8

# 編入学生募集要項

北九州工業高等専門学校（北九州高専）では、本校の教育理念、ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）及び学習・教育到達目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力を備えた人を求めています。

## －アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）－

### 「北九州高専が求める学生像」

- ①数学、理科の分野に興味がある
- ②工学の分野に興味がある
- ③実験・実習に自ら進んで取り組むことができる
- ④将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ

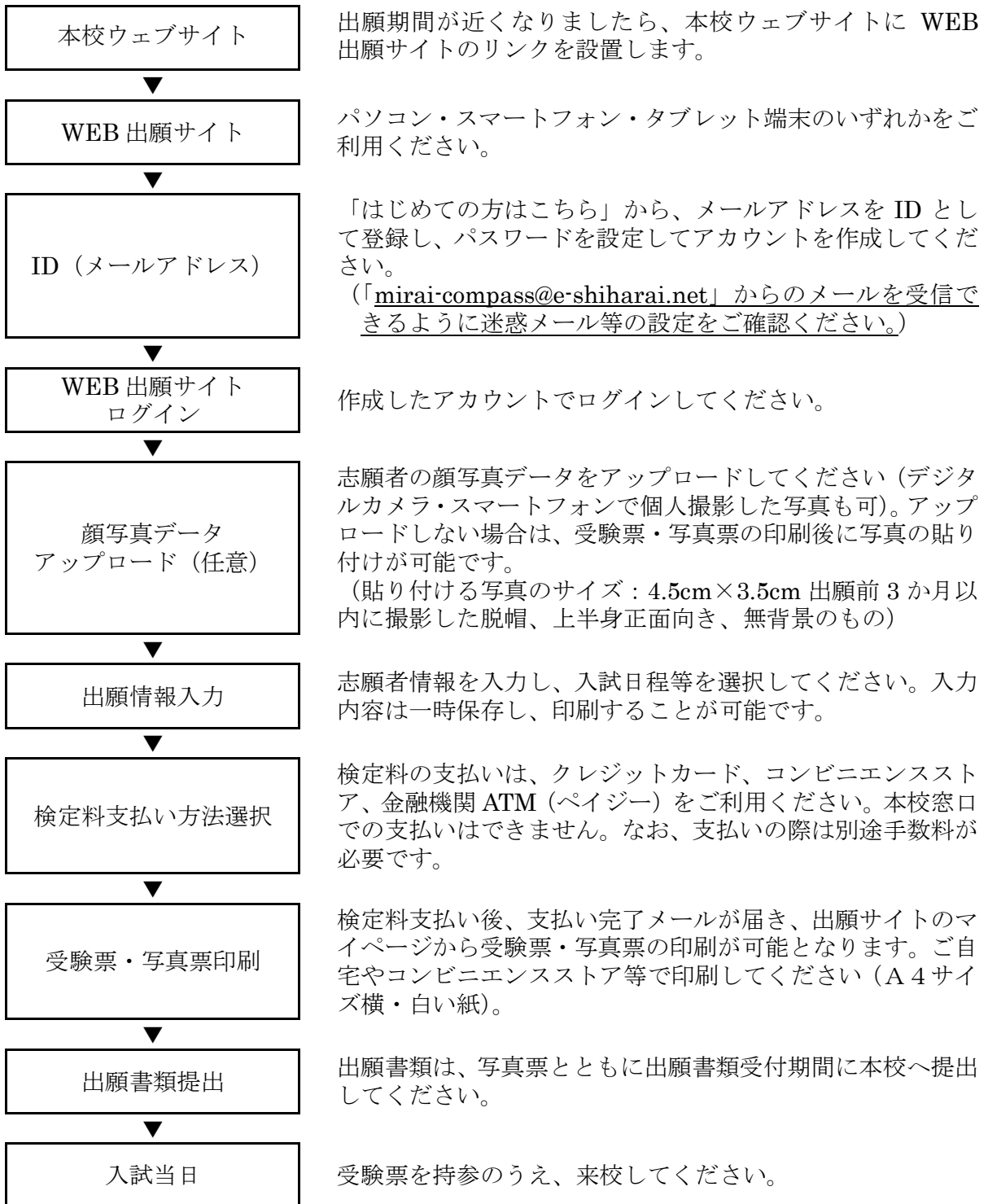
### 「入学者選抜の基本方針」

本校の教育理念、ディプロマ・ポリシー及び学習・教育到達目標を達成するために、適性と総合的な基礎学力を十分に持つ者を合格とします。

## WEB 出願について

全ての選抜で WEB 出願を行います。パソコン、スマートフォン、タブレット端末から WEB 出願サイトにアクセスし、志願者情報の入力・検定料の支払い方法の選択等を行った後、写真票・調査書等の必要書類の到着をもって出願完了となります。手続きの流れは以下のとおりです。

《手続きの流れ》



## 1. 募集学科（コース）及び募集人員

学 科	コ ー ス	募集人員	編入学年次
生産デザイン工学科	機械創造システムコース 知能ロボットシステムコース 電気電子コース 情報システムコース 物質化学コース	各コース 若干名	第4学年

## 2. 出願資格

- (1) 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者
- (2) 中等教育学校の工業に関する学科を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者
- (3) 高等学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者
- (4) 中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者
- (5) 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

※上記（5）により出願する者は、出願資格等の確認をしますので、事前に学生課入試広報係までお問い合わせください。

## 3. 志望コース

ア. 出願資格（1）、（2）の者

志望コースは、次のとおり出身学校における所属科と同系統であること。

志 望 コ ー ス	出身学校の所属科
機械創造システムコース	機械及びこれに関連する科
知能ロボットシステムコース	機械及び制御に関連する科
電気電子コース	電気、電子及び情報に関連する科
情報システムコース	
物質化学コース	化学及びこれに関連する科

イ. 出願資格（3）～（5）の者

5コースいずれも可

## 4. 出願手続

### (1) 志願者による WEB 出願

志願者は、WEB 出願サイトへの入力及び検定料（16,500円）の支払いを行い、(2) の書類等を提出してください。

WEB 出願受付期間：令和6年6月24日（月）から令和6年7月12日（金）

### (2) 出願書類等一覧

志願者は、次の出願書類等を一括し、各注意事項、(3) 及び (4) を確認の上、提出してください。

出 願 書 類	摘 要
写 真 票	WEB 出願手続き完了後に発行される「受験票・写真票」を印刷し、「写真票」のみ切り取ったもの。顔写真データをアップロードしていない場合は、4.5cm×3.5cm の写真（出願前3か月以内に撮影した脱帽、上半身正面向き、無背景のもの）
調 査 書	出身学校所定の用紙により、学校長が作成し厳封したもの。
卒業証明書又は 卒業見込証明書	出身学校所定の用紙で作成したもの。

#### [注意]

- (i) 出願書類等を郵送する場合は、書留郵便とし、封筒の表に「**編入学出願書類在中**」と朱書してください。
- (ii) 出願書類等の不備なものは受け付けません。
- (iii) 出願書類等受理後は、記載事項の変更、書類の返還は一切行いません。
- (iv) 納付された検定料は、次の場合を除き、返還は行いません。
  - ア. 検定料を納付したが出願しなかった場合
  - イ. 検定料を重複で納付した場合
- (v) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

### (3) 受付期間

**令和6年7月8日（月）から7月12日（金）（当日消印有効）**

**提出方法は郵送（書留）としますが、やむを得ず持参する場合は、事前に連絡のうえ、令和6年7月12日（金）16時まで**に持参してください。

**※受付期間を過ぎたものは一切受け付けません。**

### (4) 受付場所（提出先）及び問い合わせ先

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

北九州工業高等専門学校 学生課入試広報係

TEL (093) 964-7251 FAX (093) 964-7236

E-mail g-nyushi@kct.ac.jp

## 5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験および口頭試問）により行います。

### (1) 学力検査の科目及び出題範囲

		学 力 検 査 科 目 等	出 題 範 囲	
共通科目	【筆記試験】	数 学	数学Ⅰ（「データの分析」を含まない） 数学A（「図形の性質」を含まない） 数学Ⅱ 数学Bより「数列」 数学Ⅲより「関数と極限」 数学Cより「平面上のベクトル」	
		英 語	コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ	
専門科目	出願資格(1)、(2)の者	【口頭試問】	機械創造システムコース	機械設計（力と運動、材料の強さを含む） 機械工作（鋳造、溶接、切削加工） 原動機（熱や流体のエネルギーを含む） 機械製図（CAD製図を含まない）
			知能ロボットシステムコース	機械設計（力と運動、材料の強さを含む） 情報技術基礎（C言語、論理回路） 生産システム技術（計測技術と制御技術）
			電気電子コース	電気回路（直流回路、単相の交流回路） 電気磁気（静電界、静磁界）
			情報システムコース	情報処理（C言語、論理回路） 電気回路（直流回路、単相の交流回路） 電子回路（ダイオード回路、トランジスタ回路）
			物質化学コース	工業化学（物質と化学、気体と水の化学、 元素の性質と化学結合、 物質の変化とエネルギー）
	出願資格(3)～(5)の者	【口頭試問】	機械創造システムコース 知能ロボットシステムコース 電気電子コース 情報システムコース	物理基礎、物理
物質化学コース			化学基礎、化学	

(2) 学力検査の配点

共通科目		専門科目	合計
数学	英語		
100点	100点	200点	400点

(3) 学力検査の日時

月 日	検査科目		時 間
9月7日(土)	集合時間		9:40
	共通科目	数 学	10:00 ~ 11:00
		英 語	11:20 ~ 12:20
	専門科目		13:20 ~

※専門科目の試験は、電卓の使用を認めます。ただし、プログラム機能付きのものは認めません。

※専門科目の試験は、1人につき20分程度とします。

(4) 学力検査会場 北九州工業高等専門学校

## 6. 合格者発表

### 令和6年9月18日(水) 10時

合格者には合格通知書、在籍または出身学校長には選抜結果の通知書を発送します。また、本校ウェブサイト (<https://www.kct.ac.jp/>) にも掲載します(合格発表日の10時頃を予定。当日の通信環境の状況等により遅れる場合があります。)。本校での掲示はいたしません。

なお、電話等による可否の問い合わせには応じられません。

## 7. 個人情報取扱

入学志願者から提出された志願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料、授業料免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究



## 8. 入学手続

入学手続は次により行いますが、詳細については合格者に別途通知します。

- (1) 日 程 令和7年3月6日(木)
- (2) 場 所 北九州工業高等専門学校
- (3) その他 所定の日時内に入学手続きを完了しない者は、入学を許可しません。

## 9. 入学者選抜に関する合理的配慮の提供について

北九州工業高等専門学校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び、「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に則り、障害等による支援ニーズのある学生に対して、受験上または修学上の合理的配慮の提供を行っています。

入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する場合は、出願期間の末日までにご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、出願期間の末日を過ぎてからの相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、生徒、生徒の保護者及び在籍する学校関係者に対して、相談された内容について質問する場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容は入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

入試の公平性を担保するため、合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合があります。必要となる根拠資料に関しては、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告(第二次まとめ)」によって示されている、1) 障害者手帳の種別・等級・区分認定、2) 適切な医学的診断基準に基づいた診断書、3) 標準化された心理検査等の結果、4) 専門家の所見、5) 高等学校、特別支援学校高等部等の支援状況に関する資料、6) 本人が自らの障害の状況を客観的に把握・分析した説明資料等が該当します。

※根拠資料に関しては提出の要不要に関しても学生課入試広報係までご相談ください。

ご提出いただく根拠資料としての要件を満たしているかどうか、担当係において確認いたします。満たしていない場合は、その理由を明示したうえで再提出を求めることがあります。

(お願い)

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で「事前相談」を受けられることをお勧めします。入試後、または入学後に合理的配慮に関して初めて申請なされると、修学に必要な支援を十分に受けられなくなる可能性があります。なお、事前相談を受けられても、入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

## 10. 追試験の実施

### (1) 追試験の対象者

- ① 学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）第18条に定める感染症に罹患、または罹患している疑いがあり、本試験を受験できなかった者
- ② その他、受験者自身の責めに帰することができない理由で本試験を受験できず、追試験の受験を申請した者で、本校がその申請を認めた者

### (2) 追試験の実施日

令和6年9月21日（土）

### (3) 学力検査科目・出題範囲及び試験時間等

学力検査科目・出題範囲及び試験時間等は本試験に準じます。

### (4) 追試験の受験申請方法等について

問い合わせ先にご連絡ください。

## 11. 検定料の免除について

次のいずれかに該当する場合は、検定料の免除の対象になることがありますので、出願前に学生課入試広報係までご連絡ください。

- ① 受験生本人又は学資を主として負担している者の居住地が災害による被災に伴い災害救助法の適用を受け、居住する家屋が半壊以上（床上浸水を含む。）の被害を受けた場合
- ② 学資負担者が災害救助法の適用を受けた地域で被災し、死亡（行方不明を含む。）した場合

### 【問い合わせ先】

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

北九州工業高等専門学校 学生課入試広報係

TEL (093) 964-7251 FAX (093) 964-7236

E-mail g-nyushi@kct.ac.jp

# 学 校 案 内

## 1. 本校の創設及び沿革

我が国産業の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の養成が強く要望され、昭和 37 年度から新たな学校制度としての高等専門学校が発足した。

北九州工業高等専門学校は、この新しい高等教育機関の 1 つとして工業に関する専門教育を授け、産業の興隆並びに文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成するため、昭和 40 年 4 月 1 日工業都市北九州市に創設された。当時は、機械工学科（定員 80 名）、電気工学科（定員 40 名）の 2 学科で発足したが、昭和 45 年度には化学工学科（定員 40 名）、昭和 62 年度には電子制御工学科（定員 40 名）が新たに増設され、平成元年度には、従来の機械工学科（定員 80 名）が、機械工学科（定員 40 名）と制御情報工学科（定員 40 名）の 2 学科に改組された。平成 10 年度には、化学工学科が物質化学工学科に改組され、平成 14 年度には、電気工学科が電気電子工学科に改名された。平成 16 年度には、独立行政法人国立高等専門学校機構法により独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する北九州工業高等専門学校となった。平成 27 年度には準学士課程の高度化・再編を図り、5 学科が生産デザイン工学科の 1 学科（機械創造システム、知能ロボットシステム、電気電子、情報システム、物質化学の 5 コース）に改組された。

また、平成 8 年度には、生産工学専攻、制御工学専攻、化学工学専攻の 3 専攻をもつ専攻科（大学課程相当）が設置された。平成 16 年度には、化学工学専攻が物質化学工学専攻に改名された。更に、平成 27 年度から 3 専攻を統合し生産デザイン工学専攻に改組された。平成 18 年 5 月には、準学士課程第 4 学年から専攻科第 2 学年までの 4 年間の「生産デザイン工学」教育プログラムが、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた。これによって、国際的に通用する技術者を育成するための教育プログラムとして認められている。

## 2. 本校の教育目的及び具体的な目標

本校では、「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」を目指し、次のような 3 つの教育目的を掲げ、さらに具体的に A～G に示す学習・教育到達目標を設定して学生の指導にあっています。

（教育目的）

- ☆ 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
- ☆ 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
- ☆ 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

（学習・教育到達目標）

### **A 技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者**

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

### **B 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者**

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

### **C 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者**

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。

- ②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

#### **D 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者**

- ①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、活用できる。
- ②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

#### **E 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者**

- ①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

#### **F 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者**

- ①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③技術者としての役割と責任を認識できる。

#### **G 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者**

- ①健やかな心身をもち、社会性、協調性を身に付ける。
- ②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

### **3. 「生産デザイン工学」教育プログラム**

平成 16 年度からは、「生産デザイン工学」教育プログラムを設定しています。この教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けたもので、編入学直後の第 4 学年次から第 5 学年次を経て、専攻科第 1 および第 2 学年次までの 4 年間を対象としています。編入学者は全員この教育プログラムの少なくとも前期 2 年間の履修対象者となります。

### **4. 所在地**

〒802 - 0985 北九州市小倉南区志井 5 丁目 20 番 1 号

JR 小倉駅から JR 日田彦山線で志井公園駅まで約 20 分（下車徒歩 15 分）、JR 小倉駅前バス停から主に 34・36 番系統バスで北九州高専前バス停まで約 40 分（下車徒歩 2 分）、小倉駅からモノレールで志井駅又は企救丘駅まで約 18 分（下車徒歩 15 分）。都心を離れた閑静な地に位置し、勉学に極めて恵まれた環境にあります。

5. 教育課程  
一般科目

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国 語 A I	1	1					
国 語 A II	1	1					
国 語 B I	1		1				
国 語 B II	1		1				
現 代 文 語 I	1			1			留学生以外に対して開講
現 代 文 語 II	1			1			留学生以外に対して開講
ア ジ ア 文 学 論 I	1				1		
ア ジ ア 文 学 論 II	1				1		
地 理 I	1	1					
地 理 II	1	1					
公 共 倫 理 I	1		1				
公 共 倫 理 II	1		1				
歴 史 I	1		1				
歴 史 II	1		1				
現 代 社 会 学 I	1			1			留学生以外に対して開講
現 代 社 会 学 II	1			1			留学生以外に対して開講
基 礎 数 学 A I	2	2					
基 礎 数 学 A II	2	2					
基 礎 数 学 B I	1	1					
基 礎 数 学 B II	1	1					
基 礎 解 析 I	2		2				
基 礎 解 析 II	2		2				
微 分 積 分 I	2			2			
微 分 積 分 II	2			2			
代 数 ・ 幾 何 I	1		1				
代 数 ・ 幾 何 II	1		1				
線 形 代 数 I	1			1			
線 形 代 数 II	1			1			
物 理 A I	1	1					
物 理 A II	1	1					
物 理 B I	1		1				
物 理 B II	1		1				
化 学 A I	1	1					
化 学 A II	1	1					
化 学 B I	1		1				
化 学 B II	1		1				
総 合 科 学 I	1	1					
総 合 科 学 II	1	1					
保 健	1	1					
体 育 A I	1	1					
体 育 A II	1	1					
体 育 B I	1		1				
体 育 B II	1		1				
体 育 C I	1			1			
体 育 C II	1			1			
生 涯 ス ポ ー ツ I	1				1		
生 涯 ス ポ ー ツ II	1				1		
音 楽	1	1					
英 語 A I	2	2					
英 語 A II	2	2					
英 語 B I	2		2				
英 語 B II	2		2				
英 語 C I	1			1			
英 語 C II	1			1			
総 合 英 語 A I	1				1		
総 合 英 語 A II	1				1		
総 合 英 語 B I	1					1	
総 合 英 語 B II	1					1	
英 語 表 現 A I	1	1					
英 語 表 現 A II	1	1					
英 語 表 現 B I	1			1			
英 語 表 現 B II	1			1			
必 修 科 目 単 位 数 計	72	26	22	16	6	2	
選 択 科 目	中 国 語 文 化	1			1		(異文化言語理解群) 前期と後期で1単位ずつ、2科目を修得
	韓 国 語 文 化	1			1		前期・後期
	タ イ 語 文 化	1			1		前期・後期
	比 較 文 学 特 論	1			1		
	比 較 言 語 学 特 論	1			1		(リベラルアーツ群) 前期と後期で1単位ずつ、2科目を修得
	比 較 思 想 学 特 論	1			1		前期・後期
	比 較 地 理 学 特 論	1			1		
	比 較 歴 史 学 特 論	1			1		
	比 較 宗 教 学 特 論	1			1		
	文 化 地 理 学	2				1	1
文 化 交 流 史	2				1	1	
技 術 者 倫 理 ・ 哲 学	2				1	1	
法 学 ・ 知 財	2				1	1	
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計	17			3	10	4	
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計	8			2	4	2	
開 設 単 位 数 計	89	26	22	19	16	6	
修 得 単 位 数 計	80	26	22	18	10	4	

専門基礎科目

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当		備 考
			1 年	2 年 (前期)	
必 修 科 目	情 報 リ テ ラ シ ー	1	1		
	情 報 セ キ ュ リ テ ィ	1	1		
	工 学 基 礎 実 験 I	2	2		
	工 学 基 礎 実 験 II	2	2		
	基 礎 製 図 A	1	1		
	基 礎 製 図 B	1		1	
	メカトロニクス基礎	1		1	
	電 気 基 礎	1		1	
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎	1		1	
	材 料 基 礎	1		1	
専門基礎共通科目開設単位数計		12	7	5	
専門基礎共通科目修得単位数計		12	7	5	
一般科目開設単位数計		48	26	22	
一般科目修得単位数計		48	26	22	
開設総単位数計		60	33	27	
修得総単位数計		60	33	27	

# 機械創造システムコース

授業科目	単位数	学年別配当				備考
		2年(後期)	3年	4年	5年	
機械製図基礎	1	1				
CAD実習	1	1				
力学基礎	1	1				
機械実習基礎	2	2				
物理C I	1		1			
物理C II	1		1			
応用数学 I	1			1		
応用数学 II	1			1		
確率・統計基礎	1				1	
数値計算法	1			1		
材料学 I	1		1			
材料学 II	1		1			
機構学	1		1			
工業力学 I	1		1			
工業力学 II	1		1			
材料力学 A I	1		1			
材料力学 A II	1		1			
材料力学 B	2			2		学修単位
熱力学 I	1			1		
熱力学 II	1			1		
エネルギー工学 I	1				1	
エネルギー工学 II	1				1	
伝熱工学 I	1				1	
伝熱工学 II	1				1	
水力学 I	1			1		
水力学 II	1			1		
流体力学 I	1				1	
流体力学 II	1				1	
機械工作法 I	1		1			
機械工作法 II	1		1			
機械加工学	1			1		
設計工学 I	1			1		
設計工学 II	1			1		
機械工学演習	1			1		
創造デザイン演習 A I	2			2		
創造デザイン演習 A II	2			2		
創造デザイン演習 B	2				2	
機械製図 I	1		1			
機械製図 II	1		1			
振動工学	1			1		
自動制御 A	1			1		
自動制御 B	1				1	
メカトロニクス工学 I	1				1	
メカトロニクス工学 II	1				1	
工業英語	1			1		
工作実習 I	2		2			
工作実習 II	2		2			
機械工学実験 A	2			2		
機械工学実験 B	2				2	
卒業研究	8				8	
必修科目単位数計	66	5	17	22	22	
精密加工学	1			1		3単位以上修得 工作実習基礎は、工業高校以外からの編入学生のみ履修対象で必修である。
材料力学演習	1			1		
新素材材料学	1			1		
長期学外実習	3			3		
工作実習基礎	1			1		
学外実習 A	1			1		4単位以上修得 ・「学外実習 B」は、「学外実習 A」を修得しておらず、かつコースが承認した学外実習の場合にのみ認定される科目である。 ・「機械創造システム特論 A・B」は、コースが承認した他高専・大学等による講義・実習を履修した場合に認定される科目である。単位の認定は別に定める。
学外実習 B	1				1	
数学特論	1			1		
C A E 演習	1				1	
応用物理	1				1	
基礎デジタル回路	1				1	
ロボット工学	1				1	
工業英語演習	1				1	
品質管理	1				1	
機械創造システム特論 A	1			1		
機械創造システム特論 B	1				1	
基礎カーエレクトロニクス	1				1	
コンピュータ概論	1				1	
物質化学工学概論	1				1	
選択科目開設単位数計	21			10	11	
選択科目修得単位数計	9			3(4)[5](6)	6(5)[4](3)	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選択科目の修得単位数が変わる。
専門科目開設単位数計	87	5	17	32	33	
専門科目修得単位数計	75	5	17	28(26)[27](28)	28(27)[30](25)	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
一般科目開設単位数計	41		19	16	6	
一般科目修得単位数計	32		18	10	4	
開設総単位数計	128	5	36	48	39	
修得総単位数計	107	5	35	35(36)[37](38)	32(31)[30](29)	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。

# 知能ロボットシステムコース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当				備 考
		2年(後期)	3年	4年	5年	
ロボティクス基礎	1	1				
C A D 演習	1	1				
工 作 実 習	2	2				
プログラミング	1	1				
プログラミング応用Ⅰ	1		1			
プログラミング応用Ⅱ	1		1			
ロボットデザインⅠ	2		2			
ロボットデザインⅡ	2		2			
インターフェース工学	1		1			
組 込 み 技 術	2		2			
力 学 Ⅰ	1		1			
力 学 Ⅱ	1		1			
材 料 力 学 基 礎	1		1			
機 械 工 作 法	1		1			
電 気 電 子 基 礎	1		1			
S I e r 基 礎	1		1			
知能ロボットシステム実験A	2		2			
応 用 数 学 Ⅰ	1			1		
応 用 数 学 Ⅱ	1			1		
データサイエンス基礎	1			1		
ア ル ゴ リ ズ ム	1			1		
コンピュータアーキテクチャ	1			1		学修単位
機 械 力 学 Ⅰ	1			1		
機 械 力 学 Ⅱ	1			1		
材 料 力 学 Ⅰ	1			1		
材 料 力 学 Ⅱ	1			1		
熱 力 学 Ⅰ	1			1		
熱 力 学 Ⅱ	1			1		
水 力 学 Ⅰ	1			1		
水 力 学 Ⅱ	1			1		
制 御 工 学 Ⅰ	1			1		
制 御 工 学 Ⅱ	1			1		
機 械 設 計 Ⅰ	1			1		
機 械 設 計 Ⅱ	1			1		
創造ロボット演習A	2			2		
知能ロボットシステム実験B	2			2		
確 率 ・ 統 計 基 礎	1				1	
データサイエンスⅠ	2				2	
データサイエンスⅡ	1				1	
メカトロニクス工学	2				2	
ロ ボ ッ ト 工 学	1				1	
熱 シ ス テ ム 工 学	1				1	
流 れ	1				1	
システム制御工学Ⅰ	1				1	
システム制御工学Ⅱ	1				1	
創造ロボット演習B	2				2	
ロボット知能化演習	2				2	
知能ロボットシステム実験C	2				2	
卒 業 研 究	8				8	
必修科目単位数計	68	5	17	21	25	
選 択 科 目						
長 期 学 外 実 習	3			3		3単位修得
プロジェクト演習	3			3		
学 外 実 習 A	1			1		2単位以上修得
知能ロボットシステム特論A	1			1		・「学外実習B」は、「学外実習A」を修得して おらず、かつコースが承認した学外実習の場 合にのみ認定される科目である。
数 学 特 論	1			1		・「知能ロボットシステム特論A・B」は、 コースが承認した他高専・大学等による講義・ 実習を履修した場合に認定される科目である。 単位の認定は別に定める。
学 外 実 習 B	1				1	
知能ロボットシステム特論B	1				1	
品 質 管 理	1				1	
図 形 処 理 工 学	1				1	
基礎カーエレクトロニクス	1				1	
コンピュータ概論	1				1	前期・後期
物質化学工学概論	1				1	前期と後期で1単位ずつ修得
選択科目開設単位数計	16			9	7	
選択科目修得単位数計	7			3(4)[5]	4(3)[2]	4年生の選択科目の修得によって、5年生 の選択科目の修得単位数が変わる。
専門科目開設単位数計	84	5	17	30	32	
専門科目修得単位数計	75	5	17	24(25)[26]	29(28)[27]	4年生の修得単位数によって、5年生の修 得単位数が変わる。
一般科目開設単位数計	41		19	16	6	
一般科目修得単位数計	32		18	10	4	
開設総単位数計	125	5	36	46	38	
修得総単位数計	107	5	35	34(35)[36]	33(32)[31]	4年生の修得単位数によって、5年生の修 得単位数が変わる。



# 電気電子コース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当				備 考
		2年(後期)	3年	4年	5年	
基礎電気回路	1	1				
電気数学	1	1				
プログラミング応用	1	1				
電気電子工学基礎実験	2	2				
物理学Ⅰ	1		1			
物理学Ⅱ	1		1			
電子回路設計	1		1			
電気機器設計	1				1	
アルゴリズムとデータ構造	1		1			
電気回路AⅠ	1		1			
電気回路AⅡ	1		1			
電気回路BⅠ	1			1		
電気回路BⅡ	1			1		
電気磁気学AⅠ	1		1			
電気磁気学AⅡ	1		1			
電気磁気学BⅠ	1			1		
電気磁気学BⅡ	1			1		
電子回路基礎Ⅰ	1		1			
電子回路基礎Ⅱ	1		1			
電子回路論Ⅰ	1			1		
電子回路論Ⅱ	1			1		
電気機器AⅠ	1		1			
電気機器AⅡ	1		1			
電気機器B	1			1		
電気電子工学実験A	4		4			
電気電子工学実験B	4			4		
応用数学Ⅰ	1			1		
応用数学Ⅱ	1			1		
確率・統計Ⅰ	1				1	
確率・統計Ⅱ	1				1	
応用物理学Ⅰ	1			1		
応用物理学Ⅱ	1			1		
電気電子工学演習A	1			1		
電気電子計測工学	1			1		
電子工学	1			1		
基礎制御工学AⅠ	1			1		
基礎制御工学AⅡ	1			1		
基礎制御工学B	1				1	
パワーエレクトロニクス基礎	1			1		
パワーエレクトロニクス論	1				1	
電子回路製作実習	1			1		
数値計算法	1				1	
電気電子材料	1				1	
高電圧工学	2				2	学修単位
通信工学	1				1	
電力システム工学Ⅰ	1				1	
電力システム工学Ⅱ	1				1	
エネルギー変換工学	1				1	
工業英語	1				1	
電気法規及び施設管理	1				1	
電気電子工学実験C	2				2	
卒業研究	8				8	
必修科目単位数計	68	5	16	22	25	
選 択 科 目	画像処理	1		1		3単位修得
	電気電子工学演習B	1		1		
	電気電子工学演習C	1		1		
	カーエレクトロニクス	1		1		
	長期学外実習	3		3		
	学外実習A	1		1		2単位以上修得 ・「学外実習B」は、「学外実習A」を修得しておらず、かつコースが承認した学外実習の場合にのみ認定される科目である。 ・「電気電子工学特論A・B」は、コースが承認した他高専・大学等による講義・実習を履修した場合に認定される科目である。単位の認定は別に定める。
	学外実習B	1			1	
	数学特論	1		1		
	電気電子工学特論A	1		1		
	電気電子工学特論B	1			1	
	基礎オプトエレクトロニクス	1			1	
	パワーエレクトロニクス演習	1			1	
	回路網解析	1			1	
	数値計算演習	1			1	
機械工学概論	1			1		
メカトロニクス概論	1			1		
コンピュータ概論	1			1		
物質化学工学概論	1			1		
選択科目開設単位数計	20		10	10		
選択科目修得単位数計	7			3(4) [5]	4(3) [2]	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選択科目の修得単位数が変わる。
専門科目開設単位数計	88	5	16	32	35	
専門科目修得単位数計	75	5	16	25(26) [27]	29(28) [27]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
一般科目開設単位数計	41		19	16	6	
一般科目修得単位数計	32		18	10	4	
開設総単位数計	129	5	35	48	41	
修得総単位数計	107	5	34	35(36) [37]	33(32) [31]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。

情報システムコース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当				備 考
		2年(後期)	3年	4年	5年	
情報処理	2	2				
基礎電気回路	1	1				
論理回路	1	1				
計算機システム	1	1				
力学 I	1		1			
力学 II	1		1			
電気磁気学 A I	1			1		
電気磁気学 A II	1			1		
電気磁気学 B	2				2	学修単位
電気回路 A I	1		1			
電気回路 A II	1		1			
電気回路 B	1			1		
電子回路 A I	1		1			
電子回路 A II	1		1			
電子回路 B I	1			1		
電子回路 B II	1			1		
アルゴリズムとデータ構造 I	1		1			
アルゴリズムとデータ構造 II	1		1			
システムプログラミング I	1		1			
システムプログラミング II	1		1			
計測工学 I	1		1			
計測工学 II	1		1			
電子情報システム工学実験実習 A I	2		2			
電子情報システム工学実験実習 A II	2		2			
電子情報システム工学実験実習 B I	2			2		
電子情報システム工学実験実習 B II	2			2		
電子情報システム工学実験実習 C	2				2	
応用数学 A I	1			1		
応用数学 A II	1			1		
応用数学 B I	1				1	
応用数学 B II	1				1	
ネットワーク技術 I	1			1		
ネットワーク技術 II	1			1		
ネットワーク構成論	1			1		
ネットワーク応用	1				1	
情報基礎	1			1		
数値計算法 I	1			1		
制御理論 I	1			1		
制御理論 II	1			1		
電気機器	1			1		
情報科学	1			1		
情報制御システム創造演習	1			1		
プロジェクトマネジメント演習	2				2	学修単位
システム制御演習	2				2	学修単位
データベース基礎	1				1	
信号処理 I	1				1	
信号処理 II	1				1	
システム制御理論 I	1				1	
システム制御理論 II	1				1	
シミュレーション	1				1	
卒業研究	8				8	
必修科目単位数計	67	5	16	21	25	
選 択 科 目	画像処理	1		1		3 単位修得
	数値計算法 II	1		1		
	プログラミング演習	1		1		
	長期学外実習	3		3		
	学外実習 A	1		1		3 単位以上修得 ・「学外実習 B」は、「学外実習 A」を修得しておらず、かつコースが承認した学外実習の場合にのみ認定される科目である。 ・「情報システム特論 A・B」は、コースが承認した他高専・大学等による講義・実習を履修した場合に認定される科目である。単位の認定は別に定める。
	学外実習 B	1			1	
	電気回路演習	1		1		
	数学特論	1		1		
	情報技術概論	1			1	
	システム工学	1			1	
	人工知能	1			1	
	情報システム特論 A	1		1		
	情報システム特論 B	1			1	
機械工学概論	1			1	前期・後期 前期と後期で1単位ずつ修得	
メカトロニクス概論	1			1		
基礎カーエレクトロニクス	1			1		
物質化学工学概論	1			1		
選択科目開設単位数計	19			10	9	
選択科目修得単位数計	8			3(4) [5] (6)	5(4) [3] (2)	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選択科目の修得単位数が変わる。
専門科目開設単位数計	86	5	16	31	34	
専門科目修得単位数計	75	5	16	24(29) [26] (27)	30(29) [28] (27)	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
一般科目開設単位数計	41		19	16	6	
一般科目修得単位数計	32		18	10	4	
開設総単位数計	127	5	35	47	40	
修得総単位数計	107	5	34	34(39) [36] (37)	34(33) [32] (31)	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。

物質化学コース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当			備 考		
		2年(前期)	3年	4年		5年	
基礎無機化学	1	1					
基礎有機化学	1	1					
基礎生物化学	1	1					
基礎化学実験	2	2					
分析化学Ⅰ	1		1				
分析化学Ⅱ	1		1				
無機化学	1		1				
有機化学A	1		1				
有機化学BⅠ	1			1			
有機化学BⅡ	1			1			
生物化学	1		1				
物理化学AⅠ	1		1				
物理化学AⅡ	1		1				
物理化学BⅠ	1			1			
物理化学BⅡ	1			1			
物質化学演習	1		1				
総合物理Ⅰ	1		1				
総合物理Ⅱ	1		1				
有機化学実験	2		2				
無機・分析化学実験	2		2				
高分子化学AⅠ	1			1			
高分子化学AⅡ	1			1			
基礎化学工学	1		1				
化学工学AⅠ	1			1			
化学工学AⅡ	2			2			
化学数学Ⅰ	1			1			
化学数学Ⅱ	1			1			
応用物理Ⅰ	1				1		
応用物理Ⅱ	1				1		
化学英語	1				1		
物理化学実験	2			2			
基礎データサイエンス	1		1				
計算機化学	1			1			
応用無機化学	1			1			
応用化学工学実験	2			2			
生物材料化学	1			1			
食品科学Ⅰ	1			1			
構造解析学	1			1			
機器分析学	1				1		
物質工学Ⅰ	1				1		
機器分析実験	2				2		
資源エネルギー工学	1				1		
環境化学工学	1				1		
化学工学BⅠ	1				1		
生物反応工学	1				1		
微生物工学Ⅰ	1				1		
応用生物学Ⅰ	1				1		
物質化学実習	2			2			
物質化学総合実習Ⅰ	1				1		
物質化学総合実習Ⅱ	2				2		
卒業研究	8				8		
必修科目単位数計	67	5	16	22	24		
選 択 科 目	長期学外実習	3		3		・4年で3単位以上、4・5年で合計6単位修得 ・「学外実習B」は、「学外実習A」を修得しておらず、かつコースが承認した学外実習の場合にのみ認定される科目である。	
	学外実習A	1		1			
	学外実習B	1			1		
	数学特論	1			1		
	品質管理	1			1		
	安全工学	1			1		
	触媒化学	1			1		
	協学実習	1					1
	応用有機化学	1					1
	化学工学BⅡ	1					1
	物質工学Ⅱ	1					1
	高分子化学B	1					1
	食品科学Ⅱ	1			1		
	遺伝子工学	1					1
	発酵工学	1					1
	微生物工学Ⅱ	1					1
応用生物学Ⅱ	1				1		
機械工学概論	1				1		
メカトロニクス概論	1				1		
基礎カーエレクトロニクス	1				1		
コンピュータ概論	1				1		
選択科目開設単位数計	23			9	14		
選択科目修得単位数計	8			3(4) [5] [6]	5(4) [3] [2]		
専門科目開設単位数計	90	5	16	31	38		
専門科目修得単位数計	75	5	16	25(26) [27] [28]	29(28) [27] [28]		
一般科目開設単位数計	41		19	16	6		
一般科目修得単位数計	32		18	10	4		
開設総単位数計	131	5	35	47	44		
修得総単位数計	107	5	34	35(36) [27] [28]	33(32) [31] [30]		

## 6. コース紹介

### (1) 機械創造システムコース

機械創造システムコースでは、高度な生産システム（電気、情報、制御）に対応し、新たな技術を創造するための基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者の育成を目指しています。最近、自動車や家電などのものづくり産業において、その急速な技術の進歩は製造機械のみに留まらず、情報・制御機器にまで及び従来のものづくりの形態が大きく変わり、より多様化しています。設計に必要なイメージの具現化から加工・計測に至るまでをコンピュータで行う CAE（CAD、CAM）の技術も要求されています。そのため、機械工学をベースとした基礎知識の習得と、制御、情報、化学分野にも幅広く対応出来る技術者の養成を行います。

本コースには、上述した知識を学ぶことで取得可能な「機械設計技術者試験 3 級」、「3 次元 CAD 利用技術者試験 2 級および準 1 級」等の資格に加え、所定の単位を習得し卒業後に企業等で実務経験を積むことで取得可能な「ボイラー・タービン主任技術者（第 1 種、第 2 種）」（申請のみ）などがあります。

### (2) 知能ロボットシステムコース

知能ロボットシステムコースでは、機械に知能を与えることができる、すなわちロボットを作ることができる技術者の育成を目的に、機械工学を柱に、ロボット設計技術、組込み技術、センシング技術、インターフェース技術、知能化情報技術、システム制御技術、それらを繋ぐシステム統合化技術を論理的かつ実践的に修得できる教育課程を設置しています。人間が知能や感覚によって行ってきた複雑な作業を機械に行わせるためには、機械自身が、周囲の情報（環境や状態）を正確に把握し、その情報に基づいて論理的に思考し、その思考によって動作しなければなりません。さらに、このようなロボットを実現する技術は、身の回りの多くの製品に用いられるようになり、ロボットによる多様なサービスが創出される未来社会では、社会的課題の解決にも直結する技術です。したがって、ユーザーの視点や社会実装における課題に対して、ロボット技術を駆使して自ら解決策を提案・デザインできる優れた人材を育成するために、創造的に考える力を養う教科横断的な専門科目を配置しています。

本コースでは、受検できる資格試験として「情報処理技術者試験」、「3 次元 CAD 利用技術者試験」、「機械設計技術者試験」、「組込みソフトウェア技術者試験」などがあります。

### (3) 電気電子コース

電気電子コースでは、自ら学び続けることで、急速な技術の変化に対応でき、あらゆる分野・場所で活躍できる電気電子技術者の育成を目指しています。編入学後は、高等学校で学んだ工学基礎を土台として、電気電子工学（電気、電子、情報、機器）の専門的な知識・技術を学びます。卒業生が電気主任技術者として認定されるのに必要な科目・実験を十分実施しながらも、これからの地域・産業界のニーズに応えるため、エネルギーインフラ、ロボット・自動車産業にとって重要なパワーエレクトロニクス教育に重点を置いています。また、次世代自動車産業に貢献する人材育成のため、全コース対象のカーエレクトロニクス科目を設定しています。自主性、独創性、課題解決能力を身に付けた電気電子技術者育成のために、プロジェクト実習、PBL を行う電子回路設計、電子回路製作実習を設定しています。5 年生で

は、電気電子工学の知識・技術を工学分野の課題解決に活用するとともに、多様性のあるチームでの共同作業について学べるようにしています。

本コースで所定の単位を取得し卒業後に企業等で実務経験を積むことで、国家資格・第2種または第3種電気主任技術者（実務経験の内容と経験年数によって異なる）の取得が可能です。また、本コースの卒業者は、国家資格・第2種電気工事士の受験において筆記試験が免除されます。ただし、高等学校での履修科目によっては上記の資格が得られない場合があります。

#### **（４）情報システムコース**

情報システムコースでは、情報産業および情報技術を必要とする製造業において、高度情報化社会の技術変化に柔軟に対応できる理解力と創造力を持った実践的な技術者の育成を目指しています。

コンピュータ応用分野において、コンピュータシステム、ネットワークシステム、情報通信システム、計測・制御システムなど ICT（情報通信技術）を活用したシステムの計画、解析、設計、開発、構築、運用などを行うには、システムのソフトウェアとハードウェアの両方の技術を理解したうえで対応することが必要となります。そのため、本コースでは、これらのシステムにおけるソフトウェアとハードウェアの知識と技術が体系的に身につくように教育課程を構成しています。低学年では、電気電子工学、情報工学分野の専門基礎科目を学び、これらを土台として高学年では、情報工学分野とシステム制御工学分野のハードウェアとソフトウェアに関連する専門科目を体系的に学習します。また講義内容の理解を深め、実践的な応用力を育成するために、各学年で演習や実験実習を行います。

本コースの教育課程は、国家資格である基本情報技術者試験（FE）の内容にも対応しています。

#### **（５）物質化学コース**

物質化学コースでは、物質化学が関わる環境保全、クリーンエネルギー、高機能性素材、食品、医薬品、資源有効活用など多様な産業分野に対応するために、多様化・複雑化した問題に対処し得る工学知識や実践的技術を修得した実践的な技術者の育成を目指しています。このため、低学年では、無機化学、分析化学、有機化学、高分子化学、生物化学、物理化学、化学工学等の基礎を学習し、高学年では、材料機能や物質生産に関わる物質工学、応用化学工学、応用生物工学及び食品工学等に関連する必修科目を系統的に学習します。また、修得した知識を複合的に活用する物質化学総合実習や総仕上げ科目として卒業研究を実施し、学際的に多様化、高度化した物質化学分野に対処し得る幅広い基礎知識と的確な課題解決に至る専門知識を有するエンジニアの育成をします。

本コースでは、卒業後に修得できる主な資格として「毒物劇物取扱責任者（資格取得（受験なし）」、「危険物取扱者（甲乙）（受験資格：卒業すれば得られる）」、「衛生工学衛生管理者（受験資格：卒業すれば得られる）」、「衛生管理者（1種、2種）（受験資格：実務経験1年以上）」および「作業環境測定士（受験資格：実務経験1年以上）」などがあります。

## 7. 専攻科の概要

本校には高専本科卒業生を受入れて、さらに2年間の融合複合教育を行う専攻科「生産デザイン工学専攻」が設置されています。本専攻は、環境材料領域、AI・IoT領域、ロボティクス領域の3領域から構成されており、選択した領域の専門知識の深化に加え、幅広い視野から問題を捉え、専門分野の工学知識・技術を有機的に結び付ける力を養うことで、総合的に問題を解決する素養（デザイン能力）を身に付けることを目指しています。

## 8. 課外活動

課外活動とは、正課の授業時間外に行う学生の組織的な諸活動のすべてをいいます。その活動を通して自己を生かし、組織の発展に寄与することは将来指導的立場に就く者にとって極めて貴重な経験となります。このため本校の課外活動は、学校行事と併せ、学生が自主的に行うサークル活動が各方面にわたって活発に行われている。サークルには次のようなものがあります。

### ◎体育関係

硬式野球部、バレーボール部、卓球部、バスケットボール部、ラグビー部、サッカー部、陸上部、水泳部、柔道部、剣道部、ハンドボール部、ソフトテニス部、テニス部、バドミントン部、弓道部、空手道部

### ◎文化関係

ブラスバンド部、写真部、英会話研究部、コンピュータ研究部、美術部、高専起業部、将棋部

### ◎愛好会・研究会等

SDGs友の会、ギターコーラス同好会、文学愛好会、宇宙科学研究会、ロボコン、化学愛好会、ロボットデザイン研究会、数学愛好会

## 9. 入学時に必要な諸経費（予定額）

入	学	料	84,600 円	
授	業	料（前期分）	117,300 円	（年額 234,600 円）
教	科	書	代	約 35,000 円
教	材	費	約	30,000 円
後	援	会	費	他 37,530 円
合			計	約 304,430 円

※上記の納付金額は予定額であり、入学時及び在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用されます。

## 10. 修学支援制度（奨学金・入学料、授業料免除）

本校は、高等教育の修学支援新制度（授業料等減免と給付型奨学金）の対象校として認定されており、支援対象者は給付型奨学金の受給と併せて、入学料及び授業料の免除・減額の支援を受けることができます。進学する前年に在学高校等を通じて、日本学生支援機構（JASSO）への申込みが必要となりますので、希望者は在学高校等の奨学金担当窓口にお問い合わせください。

また、日本学生支援機構の貸与奨学金（第1種・第2種）も扱っています。進学前の予約申込もありますので、希望者は在学高校等の奨学金担当窓口にお問い合わせください。

### 給付型奨学金（給付額は令和6年度分）

給付型奨学金	区 分	自宅通学 給付月額	自宅外通学 給付月額
	第Ⅰ区分	17,500 円 (25,800 円)	34,200 円
	第Ⅱ区分	11,700 円 (17,200 円)	22,800 円
	第Ⅲ区分	5,900 円 (8,600 円)	11,400 円

※生活保護世帯（受けている扶助の種類を問いません。）で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人等は、上表のカッコ内の金額となります。

### 貸与奨学金（貸与額は令和6年度分）

	区 分	貸与月額
第1種奨学金 （無利子）	自宅通学	20,000 円、30,000 円、45,000 円
	自宅外通学	20,000 円、30,000 円、40,000 円、51,000 円
第2種奨学金 （有利子）		20,000 円～120,000 円（10,000 円刻み）

このほかに、県、市及び財団法人等による奨学金制度が数種あります。

## 11. 学生寮

学生寮には、原則第3学年次までしか入寮できません。従って、編入学生は入学後に入寮できません。

## 12. 就職状況

求人は就職希望者の30倍以上あり、就職率は例年ほぼ100%です。

## 13. 卒業後の進学

本校は、卒業生の約半数が北九州高専専攻科や国立大学工学部を始めとして、理学部、経済学部などに進学しています。更に、専攻科修了生の約半数は大学院に進学しています。

なお、主な進学先（過去3年）は次のとおりです。

（高専卒業生）

【国公立大学】		【私立大学】
東 北 大 学	三 重 大 学	東 京 通 信 大 学
秋 田 大 学	京 都 工 芸 繊 維 大 学	豊 田 工 業 大 学
筑 波 大 学	大 阪 大 学	サ イ バ ー 大 学
群 馬 大 学	岡 山 大 学	
千 葉 大 学	広 島 大 学	
東 京 農 工 大 学	山 口 大 学	
東 京 工 業 大 学	山 口 東 京 理 科 大 学	
東 京 海 洋 大 学	九 州 大 学	
長 岡 技 術 科 学 大 学	九 州 工 業 大 学	
金 沢 大 学	佐 賀 大 学	
福 井 大 学	熊 本 大 学	
名 古 屋 大 学	宮 崎 大 学	
名 古 屋 工 業 大 学	琉 球 大 学	
豊 橋 技 術 科 学 大 学	北 九 州 高 専 専 攻 科	

（専攻科修了生）

【国公立大学】		【私立大学】
東 京 大 学 大 学 院	九 州 大 学 大 学 院	早 稲 田 大 学 大 学 院
筑 波 大 学 大 学 院	九 州 工 業 大 学 大 学 院	
豊 橋 技 術 科 学 大 学 大 学 院	北 九 州 市 立 大 学 大 学 院	
大 阪 公 立 大 学 大 学 院	奈 良 先 端 科 学 技 術 大 学 院 大 学	
岡 山 大 学 大 学 院		